

「学び合い 高め合い 認め合い 夢と希望を育む小鹿野小学校」

学 校 だ よ り

学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 第5号 平成29年7月20日発行

校長 矢 鴫 泰

保護者・地域の皆様には、1学期の本校の教育活動や学校行事に対しまして常にご理解とご協力をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。本日、無事に1学期を終えることができました。364名の児童全員が安全で意義深い42日間の夏休みを送ることができますよう、重ねてお力添えを賜りたいと存じます。

学校では夏休みを前に校長講話として終業式に以下のような話を児童にいたしました。ご一読いただければ幸いです。

7月に入り大変暑い日が続くようになりました。

今年は、雨が降る日が少なく、去年に比べどの学年も多く水泳を行うことができました。そのため、長い距離を泳げるようになった人も多いのではないのでしょうか。

水泳については、5年生・6年生は、夏休みに入ってすぐに行われる水泳大会に学校の代表として力を発揮してもらわなければなりません。頑張ってください。

また、7月に入ってから、皆さんの朝の挨拶がぐんとよくなってきました。これはとてもうれしいことです。うれしい気持ちで夏休みが迎えられそうです。

是非、夏休みに入っても地域の方々によい挨拶を続けてください。

さて、1学期の始業式に校長先生は、皆さんに2つお願いをしました。

まず「やればできる。その気持ちを持てるかが、分かれ道です。」とお話ししました。

また、「やるのは後ででなく、今すぐやるようにしよう。」と付け足しました。

1学期は最初からあきらめずに、「やればできる、為せば成る」で行えましたか。また、どんなことも後回しでなく、すぐに取りかかれたのでしょうか。

2つ目は「だめなものだめ」というお話でした。いけないことは誰にしてもいけないことです。

いじめたり、言葉で悲しませることをしていい人は、世の中には一人もいないのです。

また、子どもだけの火遊びや川遊び、横に広がったり、ヘルメットをしないようなルールを守らない自転車乗りも同じです。

このほかにもたくさん「だめなもの」はあります。頭で「だめ」とわかっていることはしてはいけないのです。いくら友達に誘われてもしてはいけないということを、夏休み前に一人一人確かめてみてください。

さあ、明日から42日間の夏休みに入ります。

夏休み中も「やればできる」で夏休みの宿題をきちんと行い、「だめなものだめ」でルールが守れる生活を自分にしっかりと言い聞かせて行動していきましょう。

一人一人が事故・けがに気をつけ、楽しい自分の夏休みにしてください。

ご家庭の皆様のご協力をよろしく願いいたします。

いよいよ、夏休みが始まります。しなくてはいけないこともあります。長期の休みを利用して継続させることや日頃できない貴重な体験から一人一人にとって有意義な夏休みにしてほしいと小鹿野小学校の全職員が願っています。

自分自身の子ども時代を振り返ってみても、夏休みになると決められた時刻までに登校することや、45分間の授業、給食は12時20分からというように時間にしばられなくなるため、時間の感覚がどうしてもゆるやかになりがちです。

また、学校の集団生活で我慢をすること、友だちに励まされてねばり強く行うことなどの機会もやや減ってきてしまうかと考えます。さらに、「まあこのくらいはいいか」と、普段はしないことなのに自分自身に甘い判断をして失敗してしまうこともあるのではないのでしょうか。

小鹿野小学校では、子どもたち全員に「自分を伸ばすことができた」と実感できる夏休みにしてもらうため、全校共通の「夏休みの過ごし方」を作成し配布いたしました。

その「夏休みの過ごし方」に目を通してみますと、

- 1 規則正しい生活をする（あいさつ・生活のリズム・学習）
- 2 健康な生活をする（体力づくり・食事・歯みがき・虫歯や目などの治療）
- 3 事故のない生活（交通ルール・自転車の乗り方・水の事故防止・花火等の火の扱い）

など、充実した夏休みにするための全校の約束が記されています。

話は変わりますが、以前、NHK大河ドラマ「八重の桜」で会津藩の「什の掟（じゅうのおきて）」が紹介されました。

- 一 年長者の言うことに背いてはなりません
 - 二 年長者にはお辞儀をしなければなりません
 - 三 嘘言を言うことはなりません
 - 四 卑怯な振舞をしてはなりません
 - 五 弱い者をいじめてはなりません
 - 六 戸外で物を食べてはなりません
 - 七 戸外で婦人と言葉を交えてはなりません
- ならぬことはならぬものです。

※什の掟（じゅうのおきて）

会津藩では町に住む六歳から九歳までの藩士の子供たちは、10人前後で集まりを作っていました。この集まりのことを会津藩では「什（じゅう）」と呼んでいました。

最後の「ならぬものはなりません」は、「だめなものはだめ」という意味や「上記のきまりは堅く守るべきである」という意味があるそうです。遠い昔、会津藩での「人づくり」の元をなす考え方だったのでしょう。

現代にはそぐわない内容もありますが、時代が変わろうとも人間の生き方として通用する考えも記されていると思います。

先にあげた「小鹿野小学校の夏休みの過ごし方」は、全員に実りある夏休みを送ってほしいという小鹿野小学校全職員の願いです。掟ほど強い力は持っていませんが、安全な生活を基盤に保護者の皆様のご協力も得て、9月1日の始業式にはすばらしい笑顔の子どもたちと明るいあいさつをかわしたいと思っています。ご協力、よろしく願いいたします。